

314) 我が社の役員

我が社の役員には、なぜあの人が役員なんかになってしまったんだろうと思える吾人が何人もいる。良き意味においても悪しきにおいてもである。T 常務もその一人であるのだが、小生はこの常務にいたく好感を持っている。その人格は高潔そのものであるばかりか、何てったって浮世離れしているところがたまらない。或る日常務殿はデスクに座って、「ナンカこの辺が変に窮屈なんだよなー」と言って、太股のあたりを気にしている。その時は小生も大して気にも止めなかったのだが、常務殿が歩く後ろ姿を見て、ちょっと異変に気がついたのであります。ズボンの下の方から、何やら靴下ともズボンの綻びともつかぬ、白っぽいものがピラピラとしているのである。そこで小生は秘書殿にそのことを申し伝えると、秘書殿もそのことに気づいたようで、「常務ったら、パジャマの上にズボン履いて来ちゃったみたい。」というのであります。さすが女性はこのところの観察力はすごい。最近奥様に先立たれた常務は、独身生活を強いられているとのことではありますが、笑えない物語でありまして、常務殿におかれましては極めて有り得べき物語だったのであります。